

行政視察報告書

令和2年1月8日

長浜市議会議長

様

長浜市議会議員 草野

豊



私が出席した次の行政視察の結果について報告します。

記

1. 視察等名 令和元年度会派「尽誠」行政視察研修
2. 視察期間 令和元年12月19日(木)～12月20日(金)
3. 視察場所及び目的
 - ①愛知県東海市役所 (株)まちづくり東海の現状と課題について
 - ②長野県飯田市(株)飯田まちづくりカンパニー
(株)飯田まちづくりカンパニーの
(株)飯田まちづくりカンパニーの現状と課題について

5. 調査内容感想等

☆ 東海市の人口は114,409人で、知多半島の付け根にあり、名古屋南部臨海工業地帯の一角を形成する鉄鋼の街であり、名古屋のベッドタウンとして、人口が増え続けている。

総面積43,43km²である。

市は太田川駅周辺を中心市街地として機能させるため、根本的な再形成が必要と考え、中心市街地の再生に着手された。

平成4年に始まった土地区画整理事業、再開発事業等も平成28年に完成された。

太田川駅から東に延びる幅員50メートルの歩行者専用道路・市民活動センター・子育て総合支援センター、西側の大屋根広場・文化芸術の交流拠点大ホール・東海市芸術劇場・パスポートセンター・東海市観光物産プラザなど様々な公共公益施設が図られていた。

このような状況に合わせて、太田川駅周辺の賑わい創出と活性化を図るため、株式会社まちづくり東海が平成23年4月1日に設立されております。

この太田氏周辺を中心市街地の再生は、膨大な土地の購入から始まり、再生のための各施設等の整備が進められたことへの、行政視察研修がほとんどであるとの事であった。

私たちは、えきまち長浜(株)の運営の参考といたく(株)まちづくり東海での研修をお願いしました。

株主の構成としては、東海市・商工会議所・企業・個人が参画されており、イベント事業・施設管理・受託事業・環境協会等への協力事業など多岐にわたっておりました。

特にイベント広場での行事開催は毎月のように開催され、多い月では4回も開催されており、集客に努めておられる。

こういった事業展開を長浜市として、出来る事から取り入れるべきである

しかし、運営状況をお聞きすると、市からの指定管理料とイベント等の委託料で運営されているとの事であり、赤字とはなっていないとの事でした。

市長として太田川駅周辺整備を手掛けた事から、何としてでも駅周辺の賑わいの創出は欠かせないとの、職員の方の話から意気込みを痛感しました。

プロパー職員の方も行政感覚ではだめだ、利益を生み出し街中へ還元していくことが、やりがいであるとの事でした。

今後においては、独自での事業を起こし収入を得たい、職員の増を図り事業拡大をしたい、都市再生法人としての収入を上げたい等、前向きな意見が聞かれた。

☆ 飯田市の人口は102,628人、総面積658,66km²と広く、中山間地でもあり人口は減少傾向にある。

(株)飯田まちづくりカンパニーでは、まちづくりの原点に戻り、生活と交流と1,仕事等の都市型機能を合わせ持った、安全で便利で快適な暮らしよい環境を目指す視点 2, 中心市街地全体が一つ

の共同体であり、公共性を持った市民財産であるという視点 3, 中心市街地の土地、建物の所有と利用に関して、生活者の立場に立ったより合理的な権利関係の調整、マネジメントを行う視点 4, 土地、建物の所有者およびそこに生活する人々の利益、つまり商業地・生活地としてのポテンシャルを向上させる視点 5, つねに住民の合意形成を大切にした市民主導の視点の基、中心市街地再生に努力されておられる。

事業展開としてマンション販売、テナント賃貸事業、駐車場賃貸事業、ケア付高齢者住宅施設賃貸事業、地域交流施設の管理及び運営など、平成11年度から手掛けておられ、スケールの大きさに敬服した。

現在60件のテナントを受けて運営されているが、7~8件空きが出て来ており、今後の課題であるとの事でしたが、機能を複合化することが肝要であるとの事でした。

東海市と飯田市とでは、行政のかかわり方が、全く違っていた。

(株)飯田まちづくりカンパニーは、平成10年8月3日設立で、資本金2億1,200万円と歴史を積み重ねてこられ、行政は出資金3,000万円と15%に満たない状況であった。

行政は、(株)飯田まちづくりカンパニーに対し関与しない、カンパニーが中心市街他を守れと言ったスタンスであった。

土地再生推進法人の制度をお聞きすると、国土交通省の補助金とは、経済産業省の補助金が少なく、使い勝手が悪く飯田市としては、足踏みしているような、状況との事でした。

えきまち長浜(株)の話をする中で、スタートが違っている、行政に頼りすぎているのではないか、黒壁を視察した時には、非常に先駆的にやられていた。

黒壁を軸にえきまち長浜(株)と協力・連携し駅前を含む、中心市街地活性化に取り組めないのかとの事でもあった。

今後において、市の出資・貸付金を含め議会として検討する時期に来ている事を痛感した。

最後に飯田市としては、長浜市と同じような山間地を抱えており、過疎化が進む中なぜ中心市街地への事業を中心に展開するのかとの疑問の声が上がっている。

しかし中心の駅周辺が疲弊しては、市全体のイメージダウンにつながる事を念頭に置き、議会活動を期待しますとの事でもありました。